



—— 新春座談会 ——

1年を振り返り、今を、そしてこれからを語る 同友会活動と自社経営を見つめて

【出席】

香川県ケアマネジメントセンター(株)
代表取締役

(株)ウエストフードプランニング
代表取締役

香川同友会
事務局長

【司会】 広報・情報化委員会

(株)三好製作所
代表取締役

林 哲也 氏

(代表理事・高松第4支部)

小西 啓介 氏

(代表理事・中讃第2支部)

大森 基生 氏

三好 幸司 氏

(高松第4支部)

アフターコロナと自社経営 その一年を振り返る

司会 読者の皆様、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

早速ですが、最初に林さんにお聞きます。アフターコロナで変化した経済動向を踏まえて、昨年の自社経営について振り返ると、どんなことが言えますか。

林 コロナ禍が終わった後、考えてもいなかったことが次々に起きた年でした。例えば、夏の異常気象、円安、人口減少などですが、とくに中小企業は海外から輸入した原料を使ったものづくりが多いので影響は大きかったと思います。自社でいうと、我が社は人が中心という人と接する事業なので、職場に来ないと仕事が回りません。ですからコロナ禍による行動制限は痛手でした。

昨年一年を振り返ると、年度に掲げた目標の104%達成で、62人の社員の給与の昇給も

できました。アフターコロナの今、言えることはコロナ禍の影響でオンラインなどIT技術の活用が非常にアップしたことで、コロナ禍の中で発生した困りごとを解決する仕事の受注が増えたことです。

司会 小西さんは、いかがでしたか。

小西 当社は飲食業なのでコロナでは非常に大きなダメージを受けました。ただ、昨年5月に感染症5類に変わってからはやっと夜が明けた、トンネルを抜けたという安堵感があったのですが、実際は急激な円安と物価高騰の上に国際情勢の不安定が続き、現在もあらゆる形で影響を受け続けています。

ただ、そういう中でも2年ほど前から打開策として様々な事業展開を図ってきましたが、ここに来てその成果が少しずつですが現れ始めています。例えば徹底した社員教育や10年ビジョンの再定義を始め、新業態の開発、FC本部の構築、クラフト

ビール事業などに力を入れてきました。

これら社内取り組みと同友会活動を両輪として課題解決に向き合ったわけです。特に同友会行事の全国大会への参加です。参加すれば必ず何かを持ち帰れますし、学びだけでなく、他県同友会会員と触れ合うことで大きな刺激を受け、それによって「どんな企業でも社会や地域の課題に対してやれることは必ずある」ことを実感しました。昨年はそんな一年でした。

司会 ありがとうございます。大森さんには昨年の景気動向状況調査の結果について簡単に振り返っていただきます。

大森 景況調査の回答数が過去最高の727件となり、これだけの数の中小企業の調査データが集まるのは、県内を見渡しても香川同友会のこのデータだけです。これは香川同友会の有意性を示したものだと思えます。

データは2022年8月から

2023年7月までの内容が反映されたもので、売り上げが大きく改善されているのは、コロナの影響が落ち着いたからだと考えられます。

業種別に関してもほぼ全体にわたってプラスの水準に転じています。回答者の一番の課題は仕入れ単価の上昇で、次に上げられるのが人件費の高騰と人材不足です。調査結果から、経営指針書を社員と共に実践した企業とそうでない企業では、その差が一段と広がっていることがわかります。その結果、業績の回復にも差が表れており、それが如実に出ています。経営指針の実践によって業績が変わるというデータが示されているのは、香川同友会の特異性を見ていいのではないかと思います。

以上のことから、景況調査のデータを経営指針書の方針に生かせるものにしていく必要性を強く感じています。

次は事務局としての振り返

りですが、一昨年の事務局採用の失敗を踏まえて、慎重に採用活動を行った結果、優秀な人材を採用することができました。また、事務局の指針書にしっかりと取り組む事務局になろうと取り組んできた一年でもあります。

同友会活動は？

司会 ありがとうございます。では続いて昨年一年の活動状況を教えてください。大森さんからお願います。

大森 第一に新支部の設立があげられます。香川同友会で26年ぶりに三木支部という新しい支部ができたことは、香川同友会の歴史として重要な出来事

ですが、それ以上に設立の経緯を中協協が注目し、「同友会が新しいステージに移った」と評価しました。香川県立三木高校の共育型インターンシップから始まり、条例制定へと続く一連の流れの中で、地域に同友会を作ってほしいという要望が出て設立に至ったわけですが、これは本当に素晴らしいもので胸を張って全国に発信できると思っています。

林 企業づくり、地域づくりと同友会は一連の流れの中で全部繋がっているものです。三木高校の共育型インターンシップの



林 哲也氏

成果発表会に参加した折、三木町長から「三木町内に対応できるだけの企業が同友会にあれば」という話が出ました。やはり三木高校との関わりには大きな意味があったと思います。

大森 香川同友会での三木高校との共育型インターンシップは、先ほども言いましたが、全国的に注目されており、他県同友会にも発展していつています。これは大きな運動の進歩だったと受け止めています。

司会 このコーナーでも何度か取り上げましたが、「ココイコMAP」の活動についてはいかがですか。

大森 一昨年11月の「香川ビジネス&パブリックコンテスト2022」でパブリック部門のグランプリ受賞以来、少しずつ活動の輪を広げてきましたが、まずはエリアを絞ってスタートをと考えています。ただ、企業情報収集等の面で苦勞しています。この取り組みは地域のことを真剣に考えている香川同友会

だからこそできるものなので、地道な活動ですが、地域協議会などと一緒に取り組みを続けていく予定です。

司会 「CRASSO(クラッソ)」に関してはどうですか。

大森 三木町と東かがわ市を中心に開催された経営研究集会の分科会が「CRASSO」誕生のきっかけでした。分科会で東かがわの地域課題を東讃支部の会員がどのように解決していくかをテーマに報告され、そのときに地元の企業を地域の観光コン

テンツにするという「ファクトリーツーリズム」という考え方が提起されました。ここから福井県への視察等を実施し、四国経済産業局や地域の自治体を巻き込んだだけでなく、地域の同



小西 啓介氏

友会外の企業さんとも連携をしながらの実践的な取り組みが始まりました。

林 具体的な話になりますが、3つの会社を訪問しました。その中で一番印象に残ったのが皮革を素材にしたバッグやカバンカバンの製造業の「ドラゴン」さんです。製造現場で働いている職人さんたちがワークショップに参加している若い人たちに生き生きと接している姿を見て社長さんはとても喜んでいました。また桃農家の飯田農園さんは、山の畑の中でパンを焼いていました。ものづくりと食、どちらも生活に欠かせないものですが、それを「CRASSO」で体験するわけです。とても幅

が広い活動だと思います。

小西 これは企業型の共育型インターンシップのように思えます。受け入れる側は準備が大変ですが、実はここに大きな意味があるというか、これが大きな効果を生み出すポイントになるような気がします。いわゆるルーティンの仕事は評価される場面が少ないので、参加者の客観的な評価は、自分の仕事や会社に対して自信と誇りを与えてくれる貴重な機会になります。

他人の物差しで「すごい」と言われたら、それは嬉しい



し、その後の仕事ぶりも変わってくるような気がします。もちろん、我が社でも実施したいと思っています企画です。

司会 たしかに横の広がりが必要ですがね。では続いて「地域協議会」についてお願いします。

大森 地域協議会は、もともと同友会の組織図の中に入っており、それを実際に形にして動かしていくために高松の各地区で活躍されている会員さんが集まって議論がスタートしました。

まずは、「ココイコMAP」や「職場実習受入MAP」「共育型インターンシップ」などへの要望に対して高松の各中学校区で対応するような組織が必要ではないかということで、設置に向けての議論をしているところで。今は次年度の4月からの実施に向けて検討中です。

林 高松の場合は隣に同友会の会員さんがいても、支部が違っていると全く気付かない状態なので、



地域つながりで会員さん同士の関係づくりは肝要ですし、とても大事なことだと思っています。

大森 今期の活動の中で一番大きかったのは「財務プロジェクト」です。これは正副代表理事会和支部長会、委員長会の代表者が集まって、香川同友会の財務だけでなく、香川同友会のあり方について、横断的に皆で議論していきました。

発足当初はバラバラだった議論が、昨年末に一つの答申にまとまりました。これをもとに2月の理事会で決議が行われ、次年度から財務改革を実施していく予定です。

林 一般の企業経営者も当然と思うような事柄を同友会の中でも問題提起して、同友会と

して財政規律を確立することと、現状会費を維持しながら、2千名会勢の実現に向けての取り組みを進めていきます。

小西 昨年は外部連携確立元年だったと思っています。これだけ徹底的に外部との連携を推進していったのは、香川同友会のこれまでの歴史の中ではなかったことだと思えますし、短期間で外部組織との連携を結んだ同友会は他に例をみないのではないかと思います。

行政機関及び他団体から我々の活動や運動に対する注目度が上がってきているように思います。我々と同様、おそらく単体の活動に限界があることを感じられ、他団体との連携に積極的になっているように思います。

林 その通りですね。経営者団体として行政と話し合いをするときの雰囲気は確かに変わりました。例えば財務局との懇談のときも、お互いに手を取り合っ

小西 先ほどの話の繰り返しになりますが、振り返ると同友会で、自分の心に残るような出来事がたくさんありました。なかでも共育型インターンシップの勉強会の場に教育関係者が大勢出席しており、グループ討論では先生方から教育者の熱意を強く感じました。本

当に人を育てることに



大森 基生氏

新しい年に向けて

対して真摯に向き合っている姿を目の当たりにして、感動しました。それから、中同協の役員研修会を終えた後の香川同友会の皆さんの清々しい表情は忘れられません。

そして、財務プロジェクトは

真の同友会活動だと思っています。香川同友会を健全化し、未来発展的な香川同友会にするという

テーマのもとに、それはもう喧々諤々、ときには真逆の意見が飛び出す中で、全員が真剣に向き合ったことは忘れられない

経験となりました。丁々発止の意見が乱舞した会議でしたが、最高のプロジェクトだと思っています。

林 多数決で決を出さないという取り組みだったので、皆の合意納得を得られるところを追求した結果、本質的な議論が繰り返されたわけです。

感情を露わにする場面がたくさんありましたが、徹底した話し合いでの合意形成ができたように思います。

大森 「香川から日本を変える」というビジョンを掲げています

が、実際に香川同友会の運動が全国に広がっていることを実感する場面が増えていきます。

昨年の香川同友会会員の県外での報告者数、報告回数は過去最高でした。今、香川同友会の活動や運動は、全国の同友会の中でも先進的なものになっており、地域の行政からも期待される同友会になっています。ですから、会員の皆さんは自信をもって、同友会の運動や活動を企業づくりに生かしてもらいたいと思っています。

そういう会員さんが増えて、全国にも発信できるような同友会になることを目指して、今年一年しっかりと事務局皆で歩んでいくつもりです。

小西 「小さな一流企業」が大

分定着してきましたが、小さいけれども一流といえる何かを生み出すための一年にしたい、してほしいと思います。そういう企業にぜひなつてほしいと思います。そして、今年の大晦日には一年を振り返って成長を実感できる年にしたいし、皆さんにもそうなるってほしいと思います。

林 同友会活動と自社経営にしっかりと取り組んでこられた先輩の姿から、今改めて学ばなければと思っています。

また、いわゆる「おせっかい会員さん」のやってきたことを受け継がなければとも思います。泥臭い先輩たちがこれまでの香川同友会の土台をつくってくれているので、我々はそれを

継ぐ役員になっていかなければと思っています。

それから同友会の運動のあり方で、全国で優れたものがあれば出かけて行って学んで取り入れる。同友会運動だけでなく自社経営も同様です。そして時代の流れをしっかりと読んで進む方向を見失わないようにしたいと思っています。

司会 ありがとうございました。年の初めにふさわしいお話しの数々、私自身、考えさせられる事柄の多い座談会でした。皆さん本当にお疲れさまでした。

5

